

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月9日(水)

《祈る姿》

おはようございます

司牧する司祭から見てどの様な信者が美しく綺麗に見えるでしょうか。

それは、信者の皆様の祈る姿でしょう。今日の福音で(マタイ 11・28-30)イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私の元に来なさい。休ませてあげよう。」とおっしゃいました。私達にとって休みを得られる唯一の方法は、それは祈りではないでしょうか。祈りによって「イエス様が私のために数え切れないくらい我慢して下さっているのに、私はこんな小さな事で腹を立ててしまった。」「イエス様がいつも赦して下さるのに、私はわずかな事で人を憎んでいた。」という自己反省が出来るようになるし、又、望ましい反省は、結局祈りによって可能でしょう。

祈ることは喜びでしょうか。それとも重荷で負担になるのでしょうか。しなければならぬ義務でしょうか。

祈りについて二つの事を申し上げたいです。一つは、私達が習ったように、時間を取って静かな所でロウソクを付けたり、十字架の前で跪きながら祈る姿。これは普通の祈りと言います。普通の祈りがもっと上手く出来るようになるには一つの条件があります。それは私達の一日の全てが黙想の世界に入らなければならない事です。例えば、散歩する時、テレビで悲しい出来事を見た時、その時々イエス様と会話をすることでしょう。「イエス様どう思います。」「どうすればいいでしょうか。」「私は、どの様にこの問題に対応すればいいでしょうか。」「何故こんな辛い気持ちになるのでしょうか。」

この様な日常生活の中で神様との話し合いがなくなったら、普通の祈りも、生きている祈りにならないでしょう。

二つ目、祈りは楽しみにならなければ、私達は、中々靈的に成長できません。

ですから、皆様、朝目が覚めて、夜休むまで一日の内に色々な出来事が生じますよね。起こったその出来事に対して無感覚にならず、ただ過ぎてしまうものとしなくて、一言でもイエス様に話しかけて答えを探そうと試みて下さい。それが黙想でしょう。この黙想が一日中自然と出来るようになれば本当に祈ることが楽しめるようになると思います。奥さんの顔を見ながら黙想して下さい。ご主人の顔を見ながら黙想して下さい。思いがけない答えが得られます。

この様に気持が整えられてする祈りはもっといい祈りになると思います。そして、喜びと共に祈りが出来ると思います。

今日、最初に申し上げた福音、「疲れた者、重荷を負う者は、誰でもわたしの元へ来なさい。休ませてあげよう。」こうおっしゃるイエス様の元へ行く方法は、やっぱり祈りであることを意識しましょう。そして、祈る姿を身に付けようとする努力が何よりも必要だと思います。

ありがとうございました。